

# リレートーク

紹介者



柏木 彦氏  
リクルート  
取締役社長



船津 康次氏  
トランスコスモス  
取締役会長兼CEO

#156

## 中国に思う

最近、中国に出張する機会が多い。弊社はコールセンター、情報システム開発、データ入力などを行う、いわゆるアウトソーシング会社であるが、数えてみると中国の社員は既に3,000名を超えている。日本国内の社員数は9,500名ほどなので、人数だけでみると、中国のポジションが大変大きくなってきた。弊社の業務にとって最適な人材確保という観点から、天津（1,200名）、上海（1,000名）、本溪（遼寧省にあり、北朝鮮との国境まで車で1時間くらいの農村 600名）、蘇州（200名）等に拠点を構えている。

天津では情報システムの開発を行っており、天津大学など優秀大学の元気な学生がシステムエンジニアとして新卒で入社してくる。システム開発は日本の企業向けなので、すべて日本語環境の中で行うが、「漢字」についての理解は早く、驚くべきスピードで日本語をマスターしていく。一方、本溪では、農村地帯からの10代後半の女性たちがコンピュータに向かってデータの入力業務を行っている。こちらでも、すべて日本語の入力だが、漢字には何の問題もなく、テキパキと仕事をこなしていく。中国に行くたびに、働いている若者の眼の輝きに圧倒される。ともかく情熱をもって何の迷いもなく、仕事に打ち込んでいる。彼らを見ていると、自分自身の成長と国家の成長が、同じ角度とスピードで進んでいることを確信しているかのように見える。

昨年、経済同友会の中国委員会が行った訪中ミッションに私も参加して、訪問先の会議でいつも感じたことがある。それは日本との違いでもあるが、①組織の役職者が大変若いこと ②必ず女性が相当数いることであった。国土の大きさ、大発展期にあることなどを背景に、何事にも「スケールの大きさと勢い」を感じるのだが、それはそれとして人々の個々のパワーがとてまうまく生かされていると思う。日本に帰ってくると、いまひとつ引き締まらないものを感じてしょうがない。大きく変化していく未来への布石として、アジアの一角をしっかりと担う日本でありたいと思う。

次回は 日高 信彦氏（ガートナー ジャパン 取締役社長）にご登場いただきます。